



Serial number 328

第4話

週刊 タバコの正体

タバコを吸い終わった後も、その場所に残る煙の成分が“残留受動喫煙”（サードハンドスモーク）をもたらす、と前回紹介しましたね。とりわけ狭い部屋では、その度合いが強くなるので喫煙が繰り返されている自動車の車内や禁煙施設に設けられている喫煙室などは、気分が悪くなるほどのニオイがします。

ところで、タバコの煙が残留するのは、その部屋だけではありません。むしろ、もっと濃く残るところがあります。さて、どこでしょうか・・・それは、喫煙者自身の髪の毛や衣服、そして肺の中です。

人間の肺は、どれくらいの容量があるか知っていますか。年齢、性別、身長、体重に左右されますが成人では、およそ40ぐらいだそうです。つまり思いっきり息を吸い込めば20のペットボトル2本分もの空気が入るわけです、かなり多いですね。この中に煙が充満するのですから、吸い終わった後もすぐには肺から煙の成分はなくなりません。

ということは、喫煙室でタバコを吸った後、禁煙の仕事場に戻ってからもしばらくの間、肺にたまった煙の成分が呼吸のたびにばらまかれていることになります。だから、例えば休憩に一齐に喫煙した人が帰ってきた直後の会議室はタバコくさくなったり、移動途中のエレベーターなどにもそのニオイを残していくこととなります。

とはいえ、肺の中のタバコ成分は呼吸とともに、短時間で消えていくでしょう。それに対して、髪の毛や衣服にしみ込んだニオイは、比較的長い時間消えません。例えば、タバコを手にしていないのに、すれ違っただけで「タバコくさい」と感じる経験をした事はないでしょうか。多分この人は、喫煙を頻繁にしているか、もしくはそんな環境の部屋にいた人なのだと思います。

さて、外見上はタバコを吸っているかどうかは、まったくわかりません。しかし、接近した状態では「あれっ、タバコくさいな」って相手に感じさせてしまう場合があります。この状況は、拡大解釈をすれば“サードハンドスモーク”だと言えないでしょうか。

近年、タバコのニオイが心地よいと感じる人は激減していると思われれます。逆に、タバコのニオイや煙を不快に感じる人が多数派であることは間違いのないでしょうし、この傾向は今後、もっと強くなると予想されます。

外見はかっこ良くても、近づくとタバコくさくて、がっかり・・・なんて、なりたくないですね。

産業デザイン科 奥田 恭久